

都市再生整備計画 事後評価シート

旧下田町歴史文化散策地区

令和6年3月
静岡県 下田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県	市町村名	下田市	地区名	旧下田町歴史文化散策地区			面積	45ha
交付期間	平成30年度～令和4年度	事後評価実施時期	令和5年度	交付対象事業費	80.765百万円	国費率	0.431		

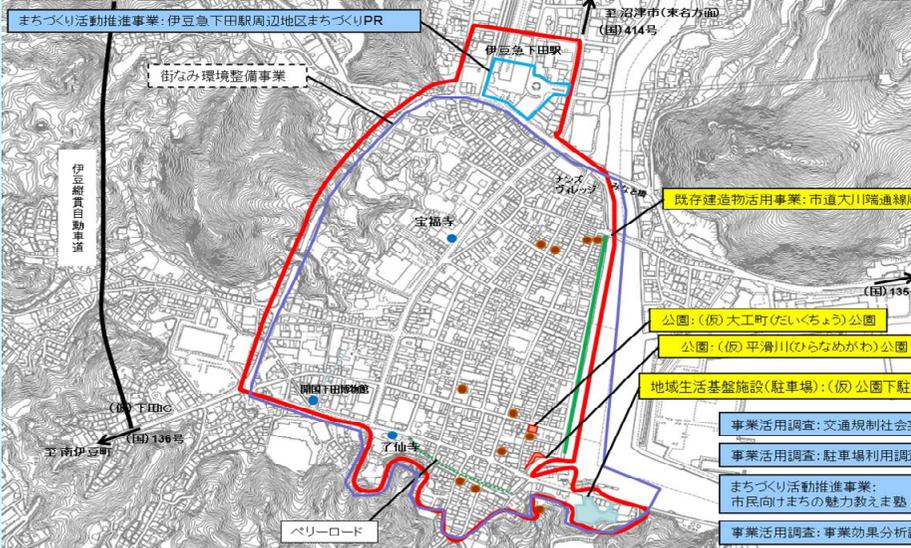
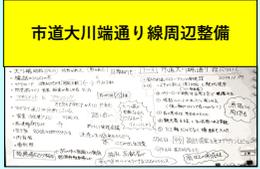
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】国道135号 【道路】国道136号 【公園】(仮)大工町公園 【公園】(仮)平滑川公園 【地域生活基盤施設(広場)】(仮)雑忠前広場 【既存建造物活用事業】市道大川端通線周辺整備
		提案事業	【地域創造支援事業】道路情報発信施設 【事業活用調査】駐車場利用調査 【事業活用調査】交通規制社会実験 【事業活用調査】事業効果分析調査 【まちづくり活動推進事業】市民向けまちの魅力教えま塾

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	①【道路】国道135号※第3回変更 ②【道路】国道136号※第3回変更 ③【地域生活基盤施設(広場)】(仮)雑忠前広場※第3回変更	①地区全体の整備及び駐車場案内標識の整備が未完であるため。 ②地区全体の整備及び駐車場案内標識の整備が未完であるため。 ③土地所有者の意向変更により、土地取得が困難となったため。	影響なし
	提案事業	【地域創造支援事業】道路情報発信施設※第3回変更	計画内において整備した駐車場への誘導に対し、既存の案内標識での誘導で対応できているか判断がつかないため。	影響なし
新たに追加した事業	基幹事業	【地域生活基盤施設(駐車場)】(仮)公園下駐車場※第1回変更	駐車場利用調査の結果、散策のために必要となる拠点駐車場を整備するため。	影響なし
	提案事業	【まちづくり活動推進事業】伊豆急下田駅周辺地区まちづくりPR※第1回変更	歴史的風致に関する周遊性の向上を目指し、伊豆急下田駅周辺地区の重要性を広めるPRを行うため。	影響なし
交付期間の変更	当初変更	平成30年度～令和4年度 変更なし	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	—

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	伊豆急下田駅の乗降人員	(人/日)	3,000	H28	3,000	R04	3,060	○	あり	公園事業や既存建造物活用事業などにより、本事業地区を訪れる観光客が伊豆急下田駅周辺を散策して楽しめる拠点づくりに取り組んできた。これらの事業効果が発現し乗降人員の増加を期待していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動制限の影響を受け、乗降人員の事業効果は正確に測れない状況となった。しかし、コロナ禍以前の動向による推計値によれば、乗降人員は目標を達成しており、本事業による事業効果が発現したものと考えられる。	—	
指標2	旧下田町主要3施設入館者数	(人/年)	108,000	H28	112,000	R04	89,598	×	あり	各種事業の推進により、当該地区の歴史・文化的価値のPRを実施してきたが、目標値を達成することができなかった。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け入館者数(56,152人)が低調であった他、コロナ禍以前より入館者数が減少傾向にあり、影響を受けたものと考えられる。しかし、事業実施地区外の類似施設と比較した場合、入館者数の減少率を緩やかな減少に留められたことから、一定の効果が発現したと捉える。(地区内の主要3施設の入館者数減少率:毎月6.3人の減少※H28.04～R元.12間の実測値から近似値を算出、類似施設A:毎月24人減少※H29.11～R元.12間の実測値から近似値を算出。)	R7年5月	
指標3									あり			

3) その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指標		単位	従前値 基準年度		目標値 目標年度		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	その他の 数値指標1	市の取り組みに関する満足度(自然・歴史を活かした景観)			39.2	H27	モニタリング	評価値	50.0					
	その他の 数値指標2	市の取り組みに関する満足度(公共交通機関の充実)	%	17.5	H27			23.5				H25年度以降の路線バス利用者の増加と共に、駐車場整備や伊豆急下田駅周辺地区のまちづくりPR事業の効果が間接的に発現したことで、公共交通機関の充実に関する満足度が、基準年よりも上昇する結果が得られたと考えられる。	—	
4) 定性的な効果 発現状況	<p>・「(仮)大工町公園:(現)大工町プレイス」や「(仮)平滑川公園:(現)弁天橋ボードウォーク」において、放置竹林を活用した「竹あかり」のイベントが開催されるなど、イベント時には多くの利用者が集まり、市民アンケート調査の結果から良い評価が得られた。</p> <p>・「しもだ散策はじめるマップ」や「しもだっこマップ」の作成により、旧下田町地区の歩いて楽しい面やまちの歴史文化などを、市民や来訪者に広く知ってもらえきっかけづくりができた。</p> <p>・「下田市空き家バンク制度」による情報提供や「下田市空き店舗活用事業補助金」の活用、空家等の利活用を通じた地域活性化連携協定を締結した民間事業者との取り組みによる効果で、旧下田町内の空家空き店舗等の利活用を図ることができた。</p>													
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—			
	住民参加 プロセス		<ul style="list-style-type: none"> ・みなとまちゾーン活性化協議会による、まどが浜海遊公園及び道の駅開園下田みなどの有効利活用と、旧下田町地区への人の流れを主題として協議などを実施。 ・平成31年1月には、官民が連携した受け入れ体制の強化、海洋レジャーの拠点化による地域活性化の理念・方針が合意に至った。 				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け活動を自粛していたが、組織は現在も継続しており、「みなとまちゾーン活性化基本計画」を令和4年3月に策定した。当該計画を実現するためにも、協議会が官民連携のプラットフォームとなり、さらなる魅力の増進を図るため、継続的に組織を運営していく。			
			<ul style="list-style-type: none"> ・下田・本郷地域まちづくり協議会による、大川端とその周辺を対象とした現地調査やWSを実施した。大川端の将来像や、将来像に向けた事業の実践に対する体制づくりなどについて検討を実施。 				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け活動を自粛していたが、組織は現在も継続している。大川端の将来像の実現に向け、官民連携のけん引役としての組織づくりを進め、継続的な組織運営を図る。			
	持続的なまちづくり 体制の構築		<ul style="list-style-type: none"> ・(仮)平滑川公園:(現)弁天橋ボードウォークと(仮)大工町公園:(現)大工町プレイスにおいて、下田商工会議所が主催するアフターサマープロジェクトの一環として、平成29年度より放置竹林を活用した「竹あかり」イベントを定期的に開催。 				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 旧下田町地区の賑わい創出や観光客の増加に効果があったことから、継続的に事業が実施できるよう、施設管理者として運営側との協力体制を継続していきたい。			
			<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者と空き家等の利活用を通じた地域活性化連携協定の締結による空き家バンク事業の推進や、ワーケーション事業における「ワーケーションサミット」の開催、補助制度を活用した空き店舗の利活用事業の推進へとつながった。 				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 「下田市空き家バンク制度」による情報提供の促進や「下田市空き店舗活用事業補助金」の周知を図るとともに、引き続き民間事業者と協力し、旧下田町内の空家、空き店舗、遊休資産等の有効活用を図る。			

様式2-2 地区の概要

旧下田町歴史文化散策地区(静岡県下田市) 都市再生整備計画の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
(大目標) 旧下田町の歴史や文化を感じる、散策して楽しいまちづくり 小目標①: 歴史的風致を向上させて、歴史や文化を感じる空間をつくる 小目標②: 駅やバス停、主要幹線道路から旧下田町中心部に人を呼び込む		伊豆急下田駅の乗降人員	人/日	3,000	H28	3,000	R4	3,060	R4
		旧下田町主要3施設入館者数	人/年	108,000	H28	112,000	R4	89,598	R4
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>(仮) 大工町公園 (大工町プレイス)</p>  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>1:5,000</p> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎事業 提案事業 関連事業 代表的な歴史的建造物 指標主要施設 </div> <div style="width: 20%;"> <p>交通規制社会実験</p>  </div> <div style="width: 20%;"> <p>(仮) 公園下駐車場 (ペリーロード駐車場)</p>  </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>(仮) 平滑川公園 (弁天橋ボードウォーク)</p>  </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>市道大川端通り線周辺整備</p>  </div>									
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり活動推進事業として「市民向けまちの魅力教えま塾」を開催した。まちの魅力として歴史文化を学ぶことで、この地域や街なみ環境の保全に対する意識の醸成につながった。また、身に付けた知識を来訪者に紹介、伝えられるよう、まずは市民に対する情報発信を行った。 ・事業活用調査による駐車場利用調査において、旧下田町地区の散策における、自動車、観光バス利用者のための駐車場整備箇所を選定することができた。 ・駐車場利用調査の結果を受け、地域生活基盤施設(駐車場)(仮)公園下駐車場整備事業により、中心市街地外周に車を誘導することができた。 ・公園事業において、「(仮)大工町公園(現)大工町プレイス」及び「(仮)平滑川公園(現)弁天橋ボードウォーク」の整備が完了し、散策路の休憩場所を整備したことにより、旧下田町地区中心部へ来訪者を呼び込みきっかけづくりができた。 ・下田商工会議所を中心としたイベントの開催により、地域住民や来訪者を呼び込むことができた。 ・まちづくり活動推進事業による伊豆急下田駅周辺地区まちづくりPR事業により、2019年3月号の「広報しもだ」に市民アンケート結果やグループミーティング報告を掲載し、当該エリアの再整備の重要性をPRすることができた。 								
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<div style="display: flex;"> <div style="width: 50%;"> <p>【効果を持続させるための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歴史的建造物の維持保全及び活用(歴史的建造物の維持保全及び活用) ・歴史的建造物について市民がその価値を学び、情報発信を継続的に実施することで、当該エリアの価値をソフト面から底上げする。 ・良好な街なみ景観が連続し、当該エリアが歩いて楽しい場所となるよう、従来から持つ街なみの魅力を保全し、さらなる良好な景観の形成を図る。 ●市民及び来訪者の交流促進(既存施設の維持管理) ・本事業により整備した公園などの環境を維持するとともに、多くの市民や来訪者に活用してもらえる取り組みを実施する。(日常的なにぎわいの創出及び定着) ・公園を会場とした非日常のイベントだけでなく、公園における日常的なにぎわいを創出するため、地域住民が楽しめる憩いの場所として交流機会の創出を目的とした事業の実施からにぎわいの定着を図る。また、これらに担う人材の育成も図る。 ●駐車場の整備及び駐車場へのスムーズな誘導(駐車場及び案内標識の整備) ・自動車利用による観光客の受け皿となる駐車場の整備を図るとともに、駐車場までの分かりやすい案内標識の整備を図る。(交通ルールの提案) ・外部から駐車場へのアクセスが分かりやすいものとなるよう、自動車の進入方向の規制などを検討するため、関係機関との協議を進める。 ●多種多様な情報発信(交流施設の活用促進) ・イベントの開催情報や観光施設の情報など、多種多様な手段による情報発信を行い、交流施設の活用促進につなげる。(整備事業などの情報発信) ・円滑な事業の進捗を目指した情報発信を広く市民を対象に行うと共に、地域住民と共に事業について考える機会を設け、市民が主体的にまちづくりを促せるきっかけ作りを行う。 </div> <div style="width: 50%;"> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●回遊性のある観光エリアの創出(既存資源を活かした経済効果を伴う観光産業の強化) ・既存の観光資源をめぐる散策ルートや体験型のイベントの開催など、経済効果を伴う観光産業の強化を図るとともに、エリア内の回遊性を高めるような仕掛けづくりに取り組む。(空き家や空き店舗の活用) ・空き家や空き店舗の解消について、所有者と活用希望者とのマッチングを図り、連続的ににぎわいの創出を図る。また、これらを担う人材の育成も行う。 ●駐車場のサイン改善(既存駐車場案内標識の有効性の確認) ・既存の駐車場案内標識の有効性について、利用者ニーズを把握することで、より良い案内標識の表示、設置について検討する。 ●安全で安心して歩いて楽しい観光エリアの創出(道路の住み分けなどの提案) ・自動車利用者がスムーズに駐車場を利用し、自動車利用者と歩行者等が共に安全で安心して利用できる交通ルールを検討することにより、より多くの来訪者の誘導が期待できる。(利用者ニーズの把握) ・来訪者を呼び込むため、当該エリアに不足している要素や期待しているものを把握し、より多くの来訪者が歩いて楽しいまちとなるよう事業を進めていく。 </div> </div>								